（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1990100289		
法人名	社会福祉法人　さくら会		
事業所名	グループホーム風林荘		
所在地	甲府市宮原町１１９１		
自己評価作成日	平成２３年１月２８日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新１－２－１２
訪問調査日	平成23年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

甲府南部　田畑の広がる郊外的な環境の中で、鎌田川の土手を散策したり、風林荘の畑で野菜、サツマイモ・焼き芋・花・百匁柿・富有柿・ころ柿づくりを行い、自家用に使ったりして、楽しむなど地域の特色を加味したグループホームの運営に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

甲府市南部の郊外で田畑の広がる穏やかな環境の中に法人の建物がある。法人には他に、特別養護老人ホーム・ショートステイ・認知症デイサービスがある。グループホームのある建物には1階に認知症デイサービス、2階にショートステイとグループホームがある。また、特別養護老人ホームの建物と廊下で繋がり、防災面や行事面などで事業所間の連携が取れる体制になっている。特別養護老人ホームの玄関には広々としたフロアーの一角にピアノがあり、コンサートなどの音楽会やボランティアの訪問時に使われている。それぞれの事業所の利用者は一緒に参加して、共にに楽しんでいる。また、法人の畑で季節の野菜作りを楽しんでいる。グループホームの居間は飾り過ぎず、心のなごむ雰囲気の中、利用者は穏やかな日々を過ごしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム風林荘

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	風林荘の運営方針「さわやかな豊かな生活を目指し適切な支援」に努めている。グループホームの具体的な目標の自立支援を念頭に適切な支援に努めている。	「さわやかな豊かな生活をめざし適切な支援」を風林荘の運営方針に掲げ、「何を望んでいるか」、「その人に合った生活が出来るか」、「関わりを多く持って」等、フロア会議で方針を具体化し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	宮原町上組の一員として日常的に交流している。また、東側の近所のお年寄りは、入り口付近の清掃をしてくれている。	自治会に入り地域と交流している。地区の運動会に参加したり、文化祭に作品を出展したり、フルートの演奏を行ったりしている。保育園の運動会を散歩がてら見学に行っている。敬老会には保育園児が来て歌や遊戯を見せてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護施設・事業所の理解と健康づくりを兼ねて大里地区体協グラウンドゴルフ部の協力を得て、風林荘大里地区グラウンドゴルフ大会を実施している。第1回（平成22年1月23日）・第2回（平成22年12月1日）を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成22年10月22日に第1回運営推進会議を開催し、6か月の運営状況を説明理解を得るとともに昼食の試食なども行った。	家族・民生委員(2人)・ボランティア評議員・地域包括支援センターの職員・自治会長・職員と運営推進会議を10月に行い、自己紹介や事業報告を行った。	事業所の取り組み内容や具体的な課題を、知見者や地域の人等に理解と支援を得る為に、より一層の運営推進会議の充実に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用状況を毎月報告している。	毎月５日までに市の介護保険課にFAXで（利用者の人数や待機者）等の利用状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現利用者の中には、身体拘束の必要性はない。身体拘束ゼロを維持に努めている。	施設・事業所内研修で、身体拘束について勉強をしている。「玄関の施錠も拘束である」と認識して安全を確保しつつ、自由な暮らしが出来るよう支援している。スピーチロックについて「危ない、ちょっと待って」等出てしまう時は、職員同士で注意し合っている。	

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	特に虐待行為はないが、自立支援が高まり、虐待に通じないよう留意も必要と考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現利用者には、その必要性はないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度を念頭に対処している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用可能な施設の利用料等説明する中で、また、空きがないかどうか確認する中で契約へと進めている。改定する場合は、勿論契約の変更を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を中心に意見要望を把握し、検討・実施・不可の了解を得ている。	運営推進会議や面会時に意見・要望を聞いている。「寂しがるので話しかけを多くして欲しい」「散歩の回数を増やして欲しい」等の要望があり、利用者主体の運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何時でもそれぞれの部署でまとめ、運営会議へ提案できる。また、個人的な意見要望は、年度末の個人面接の際か、その都度施設長と協議している。	管理者は職員とのコミニケーションを心がけ、現場職員の意見を充分に聞くように努めている。勤務体制や配置異動の意見等があり、可能な限り対応に努めている。年度末には法人管理者との面接があり意見や要望の出せる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善対策により給与水準は、若干上がり改善されたが、事業所利用料の中での支払可能なモデル賃金は、高くはない。給与規程等の見直しを検討しているが、職員を目指す人は、それらを理解し、定年まで働けることなど含め、やりがいをもって働くことも必要と考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修参加の呼びかけや、事業所外の研修参加に研修担当を中心に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	養護老人ホーム・居宅介護支援事業所との利用者の調整を含め、相互訪問をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護に当たって信頼関係は一番大切なことであり、介護計画の作成時に利用者の状態把握に努め、家族の意見を聞き、それを共有し、介護に当たっては介護計画を基に誠意を持って接し、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護に当たって信頼関係は一番大切なことであり、介護計画の作成時に利用者の状態把握に努め、家族の意見を聞き、それを共有し、介護に当たっては介護計画を基に誠意を持って接し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画に基づき必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除や食事の準備・体操・散歩等行い家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	上記のような関係を築き、家族とともに支え不安を除いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により、家族と電話や手紙のやりとりの取り次ぎを行っている。	行きつけの美容院やお墓参りに家族と行く利用者がおり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。洋服の買い物の希望に職員が同伴したり、電話や手紙での連絡を取り持つ等、繋がりが途切れないよう、継続出来るよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや会話を通し、より良い関係を築ける支援を行っている。また、関係に不都合を生じる場合は孤立しない様な対応に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの支援により得た情報や状況を提供し、今後につなげる為の相談・支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活全般において、本人の希望を重視している。必要があればこれまでの生活習慣など、家族の意見をあおいでいる。	利用者の言葉や言葉にしづらい思いを、日々の行動や表情から汲み取り把握するよう努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得たり、表情や動きから思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護計画作成に当たって利用者の状態把握に努め、介護者と共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を見落とさぬ様、一人ひとりの状況の確認を常に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き、適切な介護計画となるように努めている。	家族や居室担当者から情報を得て、ケアマネジャーが介護計画書を作成している。その後、利用者や家族に説明し同意を得ている。状態が変化した時には、担当者やフロア一会議で情報を得て、モリタリングを行い計画を修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートやフロア会議により、職員間の統一した意識と情報の共有に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不安が高じた時など天気がよい場合は、散歩やドライブなども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	野菜を作ったり、芋掘りをしたり、ころ柿やお正月のお供えを作ったり、地域のボランティアによる毎月の手芸教室、鎌田川の土手や田畑の散歩など地域資源の活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医（内科・胃腸科）による健康管理、眼科・皮膚科・歯科医の往診による診療を基本に健康維持に努め、救急の場合は協力病院である武川病院や近隣の救急病院を利用するなど適切に対応している。	以前からのかかりつけ医を継続している利用者の定期受診は家族対応とし、事業所の嘱託医の利用者は毎月、医師の往診がある。受診後は申し送りノートで職員全員が情報を共有し、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	風林荘診療所の支援を受け、適切な看護が行われるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換は継続看護連絡票（看護サマリー）によって行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開所初年度であり看取りの体制をとっていないが、本体施設（特別養護老人ホーム・ショーステイ）で看取りを実施しているので、重度化の状況を見ながら看取りの体制を整える。	開設して一年と日が浅く、終末期や看取りについて事業所としての方針は、定まっていない。敷地内に法人の運営する特別養護老人ホームやショートステイがあり、現在入居中の利用者は全員が特別養護老人ホームへの入所申し込みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修参加や看護師との連携により緊急対応に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の場合の避難訓練に努めるとともに、震災のときの安全な過ごし方等、防災訓練を年２回実施している。地域との協力体制は、自治会へ応援依頼するとともに、高齢者の避難場所として甲府市と協定を結んでいる。	法人全体で年2回、避難誘導・通報・消火訓練を日中に行っている。備蓄は3日分準備されている。自治会へは災害時に地域による事業所への応援を依頼してある。甲府市と災害時の避難場所として地域の高齢者を法人が受け入れる協定が結ばれている。	災害は時間帯を選ばないため、夜間を想定した訓練も必要と思われる。また、災害時はエレベーターが使えなくなる為、利用者を背負う、シーツで包むなどの場面も想定して、サラシやシーツなど考えられる必要物品の準備も期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を理解したうえで、その人に合わせた対応に努めている。	利用者それぞれの性格に合わせ、人格を損ねない対応に努めている。失禁時の衣類交換には同性の職員が耳元で小声で声をかけ、さりげなく支援している。入浴は一人ずつとし、名前の呼び方は苗字を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の考えを押しつけることがないよう、各自の思いを自由に表現できる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその人に合わせた生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪の希望に対応したり、季節に合わせた洋服や化粧のアドバイスも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともに食事の準備や片付けを行っている。また、おやつ作りを行っている。	主食は事業所で炊き、副食は特別養護老人ホームの厨房で調理されたものが運ばれてくる。テーブル拭きや食後のお膳下げに参加している利用者もいる。1、2か月に1回、おやつのゼリーや焼き芋などを利用者と職員が一緒に作り、共に楽しんでいる	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量のチェックを欠かさず行い、必要があれば声かけや看護師への相談を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛け、または介助により口腔ケアを行っている。また、必要があれば歯科医の指導を仰いでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを欠かさず行い、必要時には声掛け・介助に努めている。	排泄チェック表で時間で声掛けして、トイレ誘導をしている。排泄が訴えられない利用者は仕草や表情で思いを汲み取り、トイレ誘導をしている。トイレ排泄を基本として自立に向けた支援に努めている。夜間はポータブルトイレの利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄チェックを行い、それにより水分摂取を促したり、腹部マッサージなどにより改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本に1回30分として1週間に入浴に要する時間は9時間であることから、できるだけ希望を取り入れている。	月曜日から土曜日までの午前中、希望で一人ずつ入浴している。毎日入浴する人もいる。入浴を拒否する人には言葉や人を代えて再度声掛けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間シートを参考にその都度の状況により支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護職員が毎朝説明し介護職員へ渡し、介護職員が服薬を支援し確認している。また、体調変化等、毎朝、介護職員と看護職員が観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶の時間には、お茶・コーヒー・紅茶・ポカリスエット・麦茶等、希望に応じ提供している。また、毎週手芸教室を開いている。		

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へは希望を募り、一人ひとりとは行かないが、小集団で出かけている。外出については、外出レクを企画し家族も参加を募り実施している。	希望で近くのコンビニや衣料品店に職員同伴で買い物に行っている。季節に合わせ、外出レクリエーションとして家族も参加し、桜やアジサイの花見、お寿司の外食、イチゴ狩りなどに出掛ける。暖かい季節は事業所の近くを毎日散歩したり、施設の畑で野菜の植え付け作業をする事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金で家族の承諾を得て処理しているが、入居時に所持金ゼロを了承しない利用者については所持金を把握し、時期を見て金庫へ預かることとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要があれば電話をつないだり、書いた手紙を郵便局へ出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮している。	ホームのフロアーはゆったりとした広さがあり、一角にキッチンと真ん中に食事用のテーブルがある。テーブルを挟み2か所がくつろぎの居間となり、程よい硬さの長いソファーが設置され、テレビも2台置かれている、利用者それぞれが穏やかに過ごせる作りになっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂については指定し、その他の共用部分については自由に使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、本人と家族それに職員を加え居場所づくりをしている。	居室には馴染みの小物やタンス・テーブル・ソファー・位牌などが持ち込まれ、それぞれその人らしい部屋になっている。窓からは地域住民の生活の場が見える部屋や遠くに富士山の姿や、のどかに過ぎる田園風景を眺められる部屋もある。	

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室については、上記のとおり本人と家族それに職員を加え居場所づくりを行い、共用部分については、食堂（炊事場・配膳・食卓等スペース）、居間（テレビを見たり談話したりするコーナー、体操をしたりするコーナー）設け、自由に使えるようにしている。		